



雲南雜志
乾

15
1576
1



冊二
號先
函批

門15
號1576
卷1

柳運恭先生隨筆

雲三泮雜志

東都書林

靖共堂
青雲堂

梓



雲三泮雜志序

柳淇園之為人天資風流溫雅而猶且胸中之洒落世以所知也常以書畫所交遊一時有名之士無不往來者都鄙藝苑之客無不識淇園者其

平生隨聞所錄積年重日二十餘卷多是勸懲之話說也
手澤之存遂為予藏弄頃
中并某者撮其旨趣補其缺
畧題曰雲萍雜志予曾每用
暇寓目則如對其人焉聊弁

數言於卷端云

丙辰之秋日

浪華薰葭堂主人恭識

とかりふ不^ふ存^{ぞん}いん^んく^く子^し一^一年^{ねん}益^{えき}亦^もま^まど^ども^も年^{ねん}あ^あれ^れ安^{やす}か^かく^く座^ざ
一^一と^と乞^こ食^{じき}が^がわ^わく^くく^く手^て拭^{ぬぐ}を^を捨^すて^てあ^あま^まあ^あつ^つる^る饑^う乏^ふを^を尋^{たづ}常^{じょう}の^の
製^{せい}子^しハ^ハあ^あら^ら後^ご殊^{こと}ハ^ハ上^{じやう}子^し造^{ぞう}り^りく^く言^ご貴^き北^{きた}方^{かた}と^とな^なる^る菓^{くわ}子^しあり
左^さ何^{なに}う^うが^が乞^こ食^{じき}を^をどの^{どの}分^{ぶん}際^{さい}あ^あて^て食^くへ^へき^きあ^あら^らハ^ハあ^あら^らぶ^ぶる^る存^{ぞん}は^は汝^に
一^一日^{いち}が^が家^けの^の菓^{くわ}子^しと^と食^くた^たく^く必^{かならず}人^{ひと}あ^あら^らく^くの^のあ^あれ^れと^とあり^りく^く好^{この}
小^こ流^{りゅう}め^め子^し来^き入^い一^一汝^に諸^{しよ}人^{にん}の^のあ^あれ^れと^と慕^もう^うと^とう^う子^し命^{めい}を^を
汝^に子^しく^く身^みを^を以^{もつ}て^て上^{じやう}菓^{くわ}子^しと^と食^くと^との^のあ^あら^らぶ^ぶき^きや
世^よと^とお^おる^るま^まさ^さら^ら不^ふ属^{じゆく}に^に接^{せつ}あ^あり^りと^とく^く初^{はつ}べ^べき^きあ^あら^ら汝^に更^{さら}に^に后^ご先^{せん}
と^と塞^{さい}ぐ^ぐべ^べく^くず^ずと^とつ^つく^く以^{もつ}て^て追^{おひ}立^たら^られ^れば^ばら^られ^れ乞^こ食^{じき}ハ^ハ既^{すで}成^{じやう}り^り
え^えく^く何^{なに}処^{ところ}と^とも^もあ^あく^く逃^{にげ}失^しぬ^ぬ
世^よと^と汝^にの^のあ^あら^らむ^む聖^{せい}君^{くん}賢^{けん}主^{しゅ}ハ^ハ一^一言^{ごん}り^りく^く天^{てん}下^かの^の規^き則^{そく}と^とあ^あら^らば^ば倫^{りん}

言^{ごん}け^けの^の如^{ごと}く^く出^でく^くあ^あら^らむ^むび^びり^りく^くさ^さら^られ^れ徳^{とく}あり^り武^ぶ家^けあり^り二^に云^いな^な
く^くで^でい^いひ^ひ出^でた^たと^とと^と遠^{とほ}く^くハ^ハ信^{しん}じ^じ人^{にん}乃^の常^{じょう}あり^りさ^さあ^あら^らむ^む
農^{のう}夫^ふ所^{しよ}人^{にん}を^をど^ど方^{かた}々^々の^の人^{にん}ハ^ハ武^ぶ士^しハ^ハ二^に云^いな^なす^すく^くの^のあ^あら^らむ^むハ^ハ知^ちり^り家^け
ホ^ほれ^れハ^ハい^いと^と已^おれ^れハ^ハ不^ふ料^{りょう}者^{しや}と^とさ^さら^らく^くま^まの^の約^{やく}束^{そく}と^とさ^さら^らく^く何^{なに}も^もな^なら^らず^ず多^た
遠^{とほ}く^く今^{いま}い^いひ^ひた^たる^ると^とも^も信^{しん}じ^じ人^{にん}と^とな^なり^りて^て義^ぎ理^りと^とう^うく^く軍^{ぐん}少^{せう}く^くず^ず多^た
と^とい^い農^{のう}夫^ふ所^{しよ}人^{にん}と^とも^も義^ぎと^とお^おる^ること^{こと}あ^あら^られ^れば^ばれ^れの^のあ^あら^らむ^むが^が家^けと^と
この^{この}を^をさ^さら^らむ^むあり^りあ^あら^らむ^むは^は五^ご十^{じゆ}五^ご歳^{さい}の^のころ^{ころ}妻^{つま}乃^の身^みを^をう^うけ^け
五^ご丁^{てい}が^が信^{しん}妻^{さい}と^とむ^むら^らふ^ふ年^{ねん}の^のころ^{ころ}客^{きやく}の^の悦^{えつ}子^し来^きり^りて^て酒^{しゆ}宴^{えん}を^を修^{しゆ}す^す
お^おら^らむ^むる^るれ^れ子^しサ^サハ^ハ来^きり^りく^く信^{しん}妻^{さい}ハ^ハ廿^{じゆ}五^ご歳^{さい}あり^りら^らむ^むが^が二^に人^{にん}と^とも^もす^す
席^{せき}に^に出^いで^でく^くと^とも^も子^し容^{じやう}を^をり^りて^てあ^あら^らむ^むが^が主^{しゅ}人^{にん}破^め所^{しよ}の^のう^うら^らむ^むく^く坐^ざ
與^よ子^し来^きり^りて^て云^いな^なす^すが^が家^けハ^ハ五^ご十^{じゆ}五^ご歳^{さい}あり^りて^て二^に十^{じゆ}五^ご歳^{さい}に^に妻^{さい}ハ^ハ哉^け

持こくまとして小ねと子げありとるども縁のつたてりありてあり
ごころありざればあまぐくありまは悴子第一面目をも失ふことな
まかくあまびたるやうすとてん子悴が妻ありてお應の年いそ
あつとらひるるがつらつら好妻とそれ子と終子ひるるふ通じて
子居るとしてで他國へ奔りて夫婦とあまうとらやその親う
る一云より若軍のゆゑとて基とつたれりなり人の多言を信じ
ア多言ハやかれあり譏をゆとめ身を止すハ言り農夫町
んくるとも一言とらく知る一言りて不知とるる古人の誠
也つと志むア

ある人時刻を知らん為子とて自鳴鐘を求めんとするをその
妻是とてめてひるるハ明れなくる世話のりありすといひ

たる折うらおはるの隙と費し自鳴鐘はあまうとら時刻と失ふと
多うらんやめぬへとつたさあまハ虚言を釣アとるあおそれ妻又
ごめて云らるる時刻ハ人乃うとらあり汝乃汝干も一まとおまが
るる自鳴鐘と信りとするハ勤め子あるのつたてあり
と夫と保めつひ子銀とを釣すありあま
山科の隠士ノ書ハ利休と茶屋と争ひ利休が婿ありと世ノ子偏
多きとと幸よいきとあり又孝人ハ寵ちるるもとていそ歌つた
子人にめらるる利休ハ幼と手れんをのり存き人なりと今ハ
志高くあまぐくわうと人あまう人色二十年づかや志の
妻すれれや家も世十家より自鳴鐘の志氣とち
あれり利休ハ人の盛あることまで知て惜うるその妻ありと

あれり利休ハ人の盛あることまで知て惜うるその妻ありと

○
後の清水あちなる青羽乃隴ハ忘永年同子新ハ水口を治けて此
こころへ水と引たるそのむう一も青羽山のうちありへ落うとい
了ハ隴と扱て湯あきすときハ瘡と愈すこと功あるをりて諸
人下流と扱里あ上ハ東山の常よりこころ青羽の名とさううた田
村の社を清水あちのいあざ子刻ふきあよまあまハ地主権現と
云観世者ハ社地と借たる也名ハ名ルハ底を貸く表屋城
と云らるる世間のおうハ大坂あも此係一多一人も是とひと
己まが産北さる地子存りて身と堅固子修め家と大切子齊こと
ありがさ手あや人こ存地出子出世するの多一あま子居る村
ハ己まが我俵せさるまひまらづ油あしと身とさるあとも失ふ
地子出ぬるときハ堪思とてたさあし子堪思と油あかけまハお

○
のけうろ身を治め家とさるのあまを存りて子ありとて他へ出さ
るれんをさるまひと扱するのさるさうまら田村明神ハ在世乃
まぎりも人欲の私すと嫌ひひくも世と救れれんあまら
まけまら産城りて表屋と云られあまをまらとひひまらるる
一凡人ハ唯身を修めんとをまらとてあまらとてあまら
らまらるる
まら子あまのれと云らるる人こつとひひひく後話の中子ひとあま
言あま我まらあまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら
考俊の初りて用とさるあまあまあまあまあまあまあまあま
のふ肘ハ種とあまらと何果の扱せられとあり今やその
こころ絶るれこころ

○江戸あき平が著しく交り友子佐伯何業とのふ人あり書
と好みて合奉の傍にも兄甚とす多々書籍をひくき並て兄
居たり世初ひ篤実ありて常子机上の書とひけり交り
て書に上りおる一冊たりとも奉答の出へ入まをつゝして
是と戴きく名ありうらとてテ寧珠子むけりこのふア一ある書
林の尺や子書籍とありへおまきくその上とまき或ハ端こえ
とすうと又くうの書林ハ出世あり難しとつて又化の書南
の宴ありておる附ハる此書とつてまてハ出〜つてまてハ
〜とえくやぐ〜上も子ま書籍とあり〜と〜〜〜
公が大学章句の序文子身と修め人とあはれんおいて
いま〜とすう〜補ありんハあ〜と云行を足してハ後を

○かぐ〜て人と生ま〜と其の志す〜と信者〜と〜と
かくあり〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
里〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
形〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
のあま〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
初〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
只〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
世子云初不飾りあるものと又え坊として譏まども又えハ先
礼礼端あり又えかまハ大〜とハ不礼あるり此多〜人自
負する〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
負も又えを差あある〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

○
む不用の財を限りあり。利は財ハ限りあり。限り何る財を以て
て限り多き財を能く死にせざるまで貪欲尽すことあり。さき
ハ身と勞して財を蓄ふ時をその身終りし。利は財ハ用の足に
て城。築むがや。多し。妻と蓄ふ財。子不用といふ。とある。人々。す
おりのわのわも。でも。日用の外と。散らす。財ハ。多し。不用の財あり。
昔。ある。子。破貝。と。の。書。師。あり。年。が。父。世。子。在。す。ころ。を。その。乃
家。感。あり。く。他。心。へ。書。を。商。人。多く。職。今。も。救。多。形。く。ル。か。が
人の妻と。密通の。こと。隠。れ。さ。く。く。く。を。此。地。の。身。と。も。急。ぐ。く。そ
乃。妻。と。多。子。奔。り。て。全。口。の。大。財。跡。に。年。跡。の。所。と。あり。て。世。残
日。入。ぬ。五。年。を。ど。と。す。く。悔。む。此。妻。の。老。ら。る。子。捨。て。る。女子
父。お。お。り。て。使。子。く。人。と。頼。め。く。母。の。大。財。子。在。く。世。を。さ。む。い。ひ。く

た。ま。い。も。侍。を。れ。さ。る。老。ころ。より。あ。ら。う。ぬ。軍。あり。多。子。あり。門。あ
此。女。と。さ。る。の。う。く。あ。ら。う。く。こ。さ。ぬ。ま。ひ。あ。ま。く。と。あ。ら。う。く。く。く。つ
る。衣。敷。を。さ。ぐ。く。乃。こ。が。ぬ。を。も。奪。れ。終。り。を。乞。食。と。あり。て。大
伴。子。あり。子。い。と。雪。の。多。く。降。り。く。く。く。く。破。貝。が。使。く。く。く。乃
新。婦。ハ。女子。此。乞。食。薦。を。も。と。ひ。く。お。卧。く。あ。や。め。る。声。乃。安
元。及。ま。ハ。夜。半。子。破。貝。ハ。雇。て。ひ。き。付。る。子。い。ひ。の。女子。あり
不。使。子。也。を。ひ。妻。ハ。この。あ。く。せ。の。後。子。妻。も。あ。ら。う。女子。あり
正。と。あ。ひ。つ。つ。や。ぐ。く。介。抱。く。と。内。へ。く。ま。土。間。不。甚。と。あ。つ。く。く
卧。さ。め。明日。を。待。て。出。く。や。る。附。何。妻。の。その。く。身。此。果。也。と。同
乃。さ。が。口。く。く。く。多。ら。此。角。振。とい。く。と。く。乃。老。ある。が。母。の。身
お。あ。ら。う。く。く。く。人。子。め。く。く。ひ。あ。ら。う。く。く。く。ハ。父。も。さ。く。形。く

家のわとつぐづき老もあゝきと何里々何里へう移住せよ
んす人おくて母の大伴子ありぬすと安て尋ね事つれごとを今子
奪ず乞食の子まゝハ系ありあゝき老子たをうきて神を
せりといふあり磯貝夫婦ハありく又う小妻が子ありはれごもひ
ものでん致とつろあ子乳母のち子にあら成人子又とて送てせ
そこお志むく住しりおき好子化人嫁せくおごそ人の因果はる云
此業とつども善悪の應報三世ハまさるをやく、現世子報つ
てかくの如く

○
江戸葛飾の市より子権多場とつろ村長あり何年
勢大非宮へ右と神おと奏せんまゝ村民十二人
葉が赤子病に山浦の珠味と名く馳走ありて好おのく小

湯茶もあゝせんまゝ葉内へて葉臺へ招接しけまばうの村
長と好りして十二人席あけけが師ハテ、寧子あひやん
そんと好り茶と建く権多場がお出くおきくれも農夫の
身おれを葉房の心内ハいさうをあらまぶ大子んをうめあ
うそくくおひらうふつあて飲つみやん乃お小茶ハ飲と
る上子て吹お事おんあゝ吹くが十二人ハ一杯おろれ茶と飲
うけまうたりとも是るまゝ又ひらうて飲之化のめん
鼻あつせんといふおまごごととれ村長の身うりく、と又吹く
飲せんも口おきとありとさかしくんれうちおひのぞらす
ち子師ハ先お出せく口お菓子と村長があへさく、おいざ
匠おとあおれはもと茶とをあげて飲ん飲んあ子お

きりまが水師のたて茶梳とるまじ又建く村長がま子出つ
いぎ菓子城よりひつとつふふの及ハ菓子とて食ひま茶
とのこすす飲るお子おきり北の水師又多うてりあかたて
て又村長がまへ出す村長ひひるふ我まわのや海山さき
よりとま少子さあふ水の方へおかたりあまぐりこ吹あて
各一梳つ飲辞返しき重きへくおのひそりそのん
勞りの後つて臥し又も茶の響應あふつばう建
すがくちやくいぬ乞くく取ますふたあつてあふと
く費是より子推き席平がとと子来りて形ひまきこの
へこのあ子つるるとごと同及北の色く春伊勢子て恥とゆ
と情を茶茶手続と教へるつづききあぐりの事と物

がうり今子日すまがくくちうくく又口とくお不えくどの
小予大子日すひくそのりとい日る子似げまき不不職のん
かり農夫ハ農家子人を形りく農業のと子さくくくま
取うきまおあぐり茶のや陸道に手すまびあくくその
及日用子足れりといども農夫町人をどののく及まきとまあ
す世どのがま一陸居の存をいまあれを許りく茶を学
む一村ま子れ子あぐりく農附お急里か田島はてぐく
不依あぐり村茶茶及と知くさるが子耕耘收茶附子こ
を及中百人耕くく五十れ遊民あぐりその國う船す飢ぬ
づい百人耕く十人あぐりその玉果くく豊あつとくハ推
多傷感して茶茶湯と習ふんとおひまがまぬ

○ 五徳忍ぶる事あり 聖賢の教ありて世業をすすの
基人用あはれ大徳ありて脩身齊家の根柢あり是れ成る所
ハ勞する事ありて家業業人是とせざる所也衣被ハ
何の爲にり善る事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事
を善る事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事
勇彼子棄る事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事
小しき事ハ造業ありてその事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事
うする空後とやめん爲る事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事
物ありて言はれ進まざる事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事
極とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事
ありて何れも善る事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事
ありて何れも善る事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事

○ 飛鳥百羽が羽休と招き 時西瓜ハ砂糖をうけて出せしはれが羽
休砂糖の子まゝと食ふ門人子むひ百羽ハ人子饗應す
る事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事とせざる事
西瓜ハ西瓜のうまきと持しはれとあげてまゝひあましく
笑ひたりき

〇 敬と治るハ如命ホあり也生ヲ養フ生ヲ育ムと云ふべし
 勢州周の南郷子古志云その父のありて其母實母子孝書云々
 十餘歳のころ郡業に出くぬる時其母の母にけりまを
 罵るれんを抱ききく吉志云つが是と洗ひつをんて云小背
 けすし洗ひぬをす小但云つこの一事を以てまづづの初ひ
 遠くところをきと知しつ篤実此性人乃そぬむと堅之化乃
 人となめく吳尼を子一巴北不敵するそのとよくするを以て
 終子ハあきき軍も随つ陽秋と結のんあしも形くして人
 志は陰徳を施し郡業れと女ある村ハ往還子あて修を造り
 講あるところへ携とかけ只母事のあはれ志と書すてあは
 てりまふ子いとまあらん

〇 むろー江戸ある山の麓子大援助ハとて其の同登あり助
 ハれんと形り性あしと義とこのと義と遠ハざる初ひ
 あるそのとバ濟りけ義小遠ふれを豪強乃士とりとも是
 と評さる常子徳行ありと俠者の安えも知らざる人あり
 ざりき何る村にちて人と殺せし君の捕はる所の番屋小
 初られし君若のいひるる大援助ハ小登中なるせ交て
 の信まはる宵のころへ連初めをれうといふまを母あ
 助ハつて人まはるる若ありとて助ハ初て付しうつて
 兄志らざるものあはるる方ハ予がいまぞ知らざるを此形り
 何の利ありて遠くまきしヤアヤとのんぞをれ若若つてい
 るハ敬ホ口論のうまきホヤまらて人と殺し信まは死を

いさうも悔ひざれども一人の老母あり姦未死し侍る時ハ母必飢
子及の子んともれれんふくり侍れば一旦命助うて母残
事ひ送りて母死しつきりて死ひ侍るまじりて命と
助けぬりて母をかくふひてすう終にければ助ハ安んずありまこ
子及ひ孝人の老母ありまじりて口論より事起り
て人殺すこと云は絶たる悪者ととも孝善の志
あめてたすけつるすべし母と大切をせよといふあを細ま
ておひをちてつるすべし母と大切をせよといふあを細ま
子逃せし飛越えざる助ハとも人飛人と尋ねがすまじり
禁獄せしむるとして三年が獄をありしうち助ハ病て死せ
里戸ハ身ありの老母ハ所ある易行院に葬るその妻次く

○ 助ハり姦未死し自殺して日穴の契りむかひて今ふそのちよあり
ある人平小南を学んことと乞てせり云やう僕を学ん

んとおひおろしあるし他のお城をくこととあすし
士と産戸をのこを産ましとてりしれも上手とあんととも
求めず留士ハりちも留士と見え産戸ハりちも産戸と見え
やうありまじりてりちの河尋常子まじりてりちとあり
しすくれば難何あまじりてりちとありしきまぬる時ハ色不
及ありまじりす

○ ある徳侯隆居せりて副郎小宗廟せりてりちとありし朝
魯廟系のお八天地大恩の感謝を平至恩に感謝先祖父代
恩に感謝のめりてりち勤行寺に何業の僧正といふ

○
この侯子も人えしこききと存世のまは心彩ひあきまうとやま
まけけバ存世の事ハ平がぬがそんよまを人の念ぐおろくがま
うれだそまをゆとめんと世をぬり平ハこれあくぬがふと乃
熟したるのふ布掩しと存世のまハ雲母んこりされら
此侯より存世れれどが日きまうこれひく一あそ
五氏の士に信と書る中ハ難波水師が篤孝至純のこと
と載らう水師が母ハお松屋に乳人お仕とて嚴正大慈少
つあがう金く兼六十あそとあま子ぬり掎州難波お信
居るそとろの憂苦人と没しぬまあそくおま一りうく水師
常子母子仕らるといふと恭後ありて農業のよと多彩を履
く市ハ驚き牙ハ被袴るしとととと母ハハ滋味と考せり存

昔のあふの心

平家子仕とて郎と結中おぬり母と迎らうと母行ずしと
云老姫来すてふ二十子余まう世子在の目少し故々官小
仕へ身と立ぬ我起す此附おまあそあるにひさりの老姫の為
子んひうれと奪る小懈らおと考し名と子す此村あそ
日ハ飲食いふ是と都へ考し榮耀あそ此志しぬと
て運への事と治子ぬりて自害しと果らう水師無心子
世すしと考しれゆとぬと乞ひあそ子ぬりて老母の子まあ
こととあそひ治小立らうて清お古小供喜乃地産燈とつと
あそいあそ忠勤と考しおあ子治らうといふこの事平家
の考し盛衰化あそおえぬらうと忠孝とあけすしと考し
初も子き人乃やう小志らうと傳へたるしと恨あれ人を悪のこ

あがれバ善人モあつてへ善此モあがれバ悪人モよき人のごと
く難波水師ハ年及の君子つるれバ至孝疎忠やろあがらう
づりれさるいと口せしきと好むすやろその休るるさる君
くたらんと好む実子後くしる士とやのべ身

○
一休孫師業孫子おせせし時宅何業此ころやすく集りて
おがらうのついでとふ水屋見中やうの君子ハ善き水師ありお
つおせども餘り子おつけし人を教化しあハ在依の輩ハ
おいおひさどいつせさるるのどもむらうもくくうて弘通子使り
よらうて志しあらわれをそへ遠ざらう侍りあり不允のやろ
わ換ふ九丈夫ハさくめぞとまき奉とやさせぬを望らうとさあろ
ハ悦びく御師く集らす若多るるべしあがれ人ハよらうとまきこ

こふにれがさるるうらおひてあしきとむこ子他人れう人のこ
んほろあろひあろ侍るぞとやたろお孫師こころよくしる
ゆらうこころ奉とらうぬひく

佛が不在すまハいりめとつと奉と三室の海子ハ
がまるとつと本とら身死く岩根子何りてハ骨ま
ゆ

と書しとこにれあり外子めで交とハあらずとけりつとくや

○
都をく忠を子とのふところありそこり念仏堂の黄蓮と正
念城とつりわくハ思谷お居て念佛の上手と噂られ日と系
へいづく托鉢す人ころの声此おきた免でと事多多くわとこ
くろろ此僧おありて飯を焚たる肘を懸ふる法して肩お

の世お佛に於の位階あると云うと二通づつ申す子も其れ親
其れ親も持来りその子も其れ親も其れ親も其れ親も其れ親も
形どへた事ても供せず茶湯も其れと内政あり其れと何
あつても佛にお持来りよ上あつても其れに合すものと存し
の願ふと云ふ子も其れに境内に建する不地氣と持来り
持来りつけて下さまうと云うの世も其れと云う其れと云う
あつてもひいて受子お子も其れに内合すまごも受して其れ
合すると云う女乳もあつても其れに合すまごも受して其れ
嬢ひも下根下男の世と云う此正念が書く世と云う其れと云う
世あり

隠居一板起請

そらら一板起請のりうく此智者達乃致しやまう隠遁の
隠居もあつても又學問して其れを悟りて其れに隠遁ふもあ
らば其れ不用の若れ為ま其れ世に其れと云う其れと云う
類ひ多く其れもあつても其れに合すまごも受して其れと云う
子細はさむと云う但し其れに合すまごも受して其れと云う
其れに合すまごも受して其れに合すまごも受して其れと云う
存せば諸人のあつても其れに合すまごも受して其れと云う
孫も其れ人のあつても其れに合すまごも受して其れと云う
代此あつても其れに合すまごも受して其れと云う
そのひも其れに合すまごも受して其れと云う

辞世

二二八

おきく見ても事てえくも皆向トとこらでちあつと死でえよあ
此は仲尋常の老もおもたれがまごごとと京子てハ只念付村
主とちうりまびくその初状を知ら人まれあり
有子湯あこせ時日替て湯折北中五年同真のあき
瘦法師乃ひらうちらくとるをえく平ハ大子登き掛りけ
より窺うちまうく湯あこして出ゆく姿骸骨の行ふと
かきこるあ狐抱まれとぶうんあやとるの扱ハ湯
あもろで臥しぬ扱あけく此事とああかあうらうらとど
それこそ折やハ事りあふ人あ里彼女尾ハ大坂の唐扱あき
人伏又屋てあ家の娘あくあも美人の望えあうらまごとも
姑の病うおいせるとき隣あり失火あつて火のちやく病林

おせあうらうらとたすけ出さん人もあまごらうの尾とび入るく
抱へい〜おあうせ〜人ありその時焼かれも戒めく同ハ豆
治ふむらう子明ておええ口も五合やとあれど食ふ子事たり
今年もや七千歳むらうと安らうとつる子いとあり難き人と
おもひく浮きおあ〜ハ人あもらうらうのぬ
浪華子紀伊あ屋亦あつとつるも大家の商人あつけらぶ
そのうら年まごあうらうら本家何葉あつらうら正あ
らうかあ子五人是とあえれこのあうらあ子つとむらと九
十余年あれごも明れんとあ〜費とといあ業と大切あ
する此志あまらうらその褒美らうて金百両のをもとてとぎ
すあまハこれとめて何あ〜あうともそのあがん子任せあを

持ち出精しく子支此利倍とねんハ再び日かあつて入
つらばこの子亦あつた意く押ひひらの百支と更さうそ礼
と街しつと女どつげて京都子登りつうくおまふ子あひ及
多うら中に大高しう大利と食らんとする附ハううそ必
捨失あふんきと常ありう礼が日にお費されるのせあうて
後世とそ小利とつども益あふその中紙ハ利のうすまき
乃とそ日利多きものあれば唯廉紙此捨んまきとあきあふ
るそそ西の旧院子亦常しうそ廉紙と業う紙屑と買ひて
儲うそそハ賣りうそ百支とつとそとてそをせむうがやど
お三百支の利とつう又その金子て廣く家業とねん
にまご五年子子あふもありうまごバやがく派華おいそ
主人

小支こえてうねりゆうりー百支とつとそとそとそとそと
あ子ハ形しつうぬそそ主人へののありやのべうしお主人大
お書美しそのががが子勤しそそありう常あうぬ志と
おつてもあうそとつてありそとつてあれ子支と指
初一万支おすうそとありうまご異り又五とせとつて
お一万支に倍しう主人のあつて風程しうまご主人まご大
に書美して二万支とそ支度ハ十支あうそとそとつて
つうそ亦あううそとありやうそハとつてあゆうりー百支と子
ああつてそれ子支と一万支とつとそとつてハとつてれ倍し
も此一万支残十支支おきんと何の子細うそとつてまきとて
そとそも種ぬる子十支支倍しうそれハ主人その傷きと

感じしるの幸抱二の上を善國すまきあもあふぬどこめ
わ百五支あも倍すつと何れハ亦あふらへるる万十支
のこぶねを以て百万支するこハ幸勞するおまらるる
さてわづゆる交とあり書付主家北に身帯いつるもの
みく倍らふと同ハ主人こえて身帯子ハいつる
まうもあらざるぬらいつるさるど乃たく主人おらつてもその
上あも控こぶねとやとやと長さいふあやといハ控
と押りあつていもぐ飽ととあらずといふ亦あふあやんさ
あふ此こぶねを倍すととを是と限りこつてぬされう
おハ命こそ家おれ命ありこの人乃財あり命子くて財
ありてこそ益子とや小主人云おハまゝその才といふは

ちるふ遠ア財と持てこそ世ふあふらひと何れ命ありと
て財あふらさきく此うひさしとおあといハ亦あふら
万支と主人子そのあまらうらあまでのこハ命の身あれば
作らるるまきうらうら身帯子を形ひの倍まハ暇なつて
こいふ人れとハゆるらうらうらとていふ女と乞てはう
若平のこぶねと縁ある身帯子配り分帯帯とてまひ際と
園智村と改名しと大駱古乃綾茅とぬらふ糸へいで
うまへ目々お控辨しとて流子終末りそのやうに老
塚と建する石に刻める辞世の哥子
流子流子流子流子の流子と欲めありき
流子流子流子流子の流子と欲めありき
流子流子流子流子の流子と欲めありき

東山子寓居せし一畝 碓氷井子住るが川糸と通りすこと
ハあけて用あるときハ五茶三茶とすれり遊里共居おどの
乃ハサけて通るざり乃常ホ儉約とするとも昔人ハ
してさうらうハホ子そ調の形と形ホセ常子儀那のうささ
ホ多て一肉の美味は更乃舌にホあり大丈夫何ぞ飲食子心
とてちあることとせんやとつり

○
生約山と越る日林篠といふ村をがまふぬを輪観音とあま
する堂ありさすか名子抄山色風景郊野のあめおとろけ
ホハ此重ハ三葉てたごころめらうらうら子半おどおろく片
同志ひさる男の平都婆とさうらるるとえさくは細工とさ
あやとハハ削りさうらる平都婆とさうら子半とく圍炉の灰さ

あうーん子唇葉てやびたる 権子小湯とて茶葉のつき
たる茶梳成下寧子あうひさぎて大坂ありのひー茶あり
とく鯉小煎ドあぬ平もんよ二三梳と喫して志バ一甜
つらうちまのさうらあハハと此地の産みくさあうらうらうら
彌交代さーおと成りて二十一年平どを糸ふくくつれど
も不仕合あるとホはききく茶ハより目ハさうらーサーのあ
べあうらハこの地子老朽ぬる形茶葉乃湯とさうらとをさうら
ハうらすきびより起るさうらあやあといひつ茶子と梳子盛
てさうらつて平さうらてさうらあうらの本此茶子味とさうら
く炮やたる好り珍くさうらさうらあとしてさうらあうら茶教
梳とさうらさうらあま此ハハ糸ホ糸ホ在り茶教の茶人宗

瓦など列條申あつて茶席ちやせきも迎へて進薦しんせん茶建ちやけんることちかも
 おぞえ侍さむらいほど大々一人ひとりの茶仕場ちやしちやをお北きたとのやうようふんふんほほひて
 あつてつつおおももいいととむむづづくくくく東山とうざんもも何なに菴あんととうう中ちゆう道だうの
 建けんするする席せきとと羨せんししをを心こころひひててそのその好このれれくく子こ建けんたたくくととくく何なに又また
 庭にわにに床とこ板いたとと松まつあありりてて席せきセセツツああるる残のこ好このめめうう赤あかおおももふふははいいら
 ぬぬととけけ少すくうう席せき敷敷セセツツああるる板いたととととむむるる小こややとといいふふううくくき
 小こ同どうらら北きたのの建けんするする席せき子こ床とこ板いたのの席せきセセツツあありりルル進しん薦せんとと
 撥はすするるおお里りとといいうう笑わらふふきき此こゝ處ところへへきき小こああつつすすやや師しのの造つくるる
 下したににききをを空そらめてめて席せきをを手て板いたののおおききままりり子こああるる板いたももくくせ
 らられれくくおおづづくくささああ北きたのの子こ師し北きたああとととと慕あこへへババととくくくくくく疾はや
 ああるるそのそのとと求もとむむるるハハ庭にわとと廊りやうハハああつつてて障しょう子こああつつひひてて師しのの疾はや残のこ

ああるるをを庭にわととははドドククとと申まをすす二にのの尺ぶちききああつつ小こせせああと
 つつ子こハハああつつすすききくくままううくく何なにのの家いえ尺ぶち具ぐととくく毛け豆まめととぬぬお
 とと何なにくくああつつくく北きた肘ひじ乃すなはちち子こ合あははすすとと馳ち走そうとと六むすすのの形かたちととくくすす
 づづくくおおりりろろききととハハ豆まめととぬぬととろろああああつつてて豆まめととぬぬととくくもも不ふ雅みやび
 子こととととぬぬくく人ひと子こととかかくくををああつつててききぬぬくく小こ好このとと致いたせせども
 くとくとををとと控かまむむととハハ風かぜ流りゅうのの尺ぶち人ひと子こハハ何なにくくすす程ほど不ふくく程ほどとと進しん北きたと
 るる人ひとああつつぬぬハハ茶ちや好このとといいふふれれととああつつくく茶ちや尺ぶちのの人ひとととハハ心こころちち北きた侍さむらいとと
 ととててそのその立たち居いろろくくああつつひひととおおくくややううくくととハハ二にのの者ものとと進しん行ぎやうとと
 ぬぬああつつくく喜よろこびびおおききままくくくくああつつ何なにのの書かきををとと申まをすすああつつぬぬ平へいハハああつつりり北
 乞これれもも茶ちや好このありりととくく羨せん子こああつつすすああつつぬぬ平へいハハああつつりり北
 おおととりりろろとと不ふ記き念ねん子こああつつくく造つくるる卒そつ都と婆ばとと一いち奉ほう求もとむむ打

ア〜〜人むんご〜〜ぬこのありやめぬへさあ〜〜ばうぬ〜〜書
〜〜のあり〜〜と〜〜す〜〜と〜〜及古の申あり〜〜一ひ〜〜抄
出〜〜と〜〜て〜〜と〜〜れ文左の如〜〜

子〜〜換ずれ〜〜も木〜〜ぐす〜〜ののと〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
金〜〜め〜〜梅〜〜す木〜〜です〜〜物〜〜を木〜〜子〜〜て〜〜は〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
土〜〜で〜〜造〜〜る〜〜と〜〜金〜〜と〜〜か〜〜ら〜〜る〜〜と〜〜のハ金〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
ハ換〜〜す〜〜と〜〜と〜〜ひ〜〜て木〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と

〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
一〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
幸〜〜の〜〜風〜〜子〜〜瘦〜〜麻〜〜疹〜〜瘡〜〜癩〜〜病〜〜の〜〜病〜〜あり〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
島〜〜本〜〜種〜〜へ〜〜祈〜〜念〜〜〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
謀〜〜やら伊〜〜勢〜〜と〜〜春日〜〜の〜〜此〜〜社〜〜孫〜〜勒〜〜業〜〜形〜〜が〜〜は〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と

ハ換〜〜す〜〜と〜〜と〜〜ひ〜〜て木〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
一〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
幸〜〜の〜〜風〜〜子〜〜瘦〜〜麻〜〜疹〜〜瘡〜〜癩〜〜病〜〜の〜〜病〜〜あり〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
島〜〜本〜〜種〜〜へ〜〜祈〜〜念〜〜〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
謀〜〜やら伊〜〜勢〜〜と〜〜春日〜〜の〜〜此〜〜社〜〜孫〜〜勒〜〜業〜〜形〜〜が〜〜は〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と

ハ換〜〜す〜〜と〜〜と〜〜ひ〜〜て木〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
一〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
幸〜〜の〜〜風〜〜子〜〜瘦〜〜麻〜〜疹〜〜瘡〜〜癩〜〜病〜〜の〜〜病〜〜あり〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
島〜〜本〜〜種〜〜へ〜〜祈〜〜念〜〜〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
謀〜〜やら伊〜〜勢〜〜と〜〜春日〜〜の〜〜此〜〜社〜〜孫〜〜勒〜〜業〜〜形〜〜が〜〜は〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と

らず只あけくまきあはとのこあして更子他の業をまきん
まろこふとあく怒るこ正好くあをまおとあく楽しむと
きしおれふ小目あはる者と友とすれは是とんせんとすふ
つひ耳あはたる者友とすまば一孔を安せんとする子
煙と友とすれは是をささきせんといはる子日陰らふは
あま子あつては女が年をもちるとも吾又女が年子あつて吾有
とちるまこころを志るはまこころいおんぢふ吾影あまも又
人の影あまも

○ 飯食の費ふ美盛子募るの勤めおろや明はれは又明か
けれは飲食子まきしうは人れ世あは是とひと此のほ
たる孝不穡産の焦と削りて冥利子湯の粉は洗ひあつて捨

す鴉ハコウチ葉飯子酒のす掬と加人儉をあまぬく大振葉
割麦乃粒とをれり月小孫広此切米りてひくろ赤門の急
業とてとす

○ 大系女の費子カを藤子が影あは業とてはけて八年
が小廓れ才とを係む

○ ささくを大系れ山子お春のさう子り業と渡らおとをん
神仏を信するのほを神仏日侍の平とおすびく念をきれ
バ感應子とてさまは天の恵と受んと祈る者も天乃あは
とく小私あまする射ハ恵外とてはるをあまらうす人をま
たるも人と日ささく神の心を獲れ如く仏心を考る
の如く天乃人の依怙あまは人れ人を日ト

○ 人善不善を動かさざるものも悪を動かさず二の念ありて生ぜしむるを
 被念くく一不善が一轉變してあましく此も止事あきりの
 ハハ好く此出るをさうとあり知らざれば悪を退けて善を修め
 ありがくをさう一善を人の本心ありて常の持ところのこれあり
 悪ハ念よき起して此あり入来るもの好く耳目鼻舌は五感の
 善あるありて善と悪とすくあり此二つを善あるはハ
 つふふこの善と悪とのむあり悪とすくあり此二つを善あるはハ
 五事より中より立つて一善と悪との好あるをこのを修め
 一悪とすくありて悪とすくあり此二つを善あるはハ
 の私と持手としてよりつ初めハ福より一圍基の上よりある
 がと一とのれよよきある人と困窮する人転じて持手とぬれ私

二二五

○ 欲とすく変ある時ハ大節ふのぞきて智力と進すところ
 あり初ひたその足なるありとほくく一善と悪との好あるを
 の外あり
 主人ハおのれが仁の本よぶとて教ましく仁に不忠あると教
 らず臣民ハおのれが君の及むとて教ましく臣に不忠あると
 教むべし仁ハおのれが君の及むとて教ましく臣に不忠あると
 教むべしと諭す一夫ハ妻に不貞と教む一子ハ父に不孝と教
 むと教むべし一妻ハ夫に不貞と教む一子ハ父に不孝と教む
 ありて子がなく一兄ハ弟に不敬あると教む一子ハ父に不孝と教
 むのにおよばざるを教む一弟ハ兄に不敬あると教む一子ハ父に不孝と教
 むのにおよばざるを教む一朋友をくひて人の不信と教む

二二六

○
うぐしておのまはが珠の友とせんと致さるる君の如くして居るは
とくすハ仁あり居るは君の如くして居るは親子
身夫婦朋友互ふその色とくして居るは
のづからその強を申すありては偽も表と包まむのつらひ
あてやむぐし飾るても物のまは珠の本と失ふるは
年よりくしく色ありまは骨やしく志とやうあらず
そ色ありまは慣習ありて邪見あり世子色気とよふは
教のつやとくねひしく志すも不嫌欲のまはあはれ
色ありまは人きづかず農とて色きれおお育たず子
志す色形もまは巧みかく志と志す色あけは人同た天
地の可何りの色あくして一日も世に立ちがくは孟子

○
ふいとゆる大至色と好むの辨ありあへ
人備れまは志の心より出ざるまは仁志孝廉和愛教そ
の信むくまは人情あり親乃子と志すも死あんと覚悟し
たるんこの他を殊れ此誠心志慕よりいで志情なき射ハ
不仁の君子志と致すりのあく不志の親子孝とおほ者
おしまむハ顔淵が吾能せん此射をくわ志をが志らる
るのあむとひやまぐし志あり
○
志すは人志のきうらあしおれおそれも二死あむを志す
鬢鏡附まは志なきまは志の眼鏡あり目はありのとくし人
志すめ志無不親の目鏡ある子とて善さかきしむ子
鬢鏡あり人の一寸と志すを志すしとく吾身此一尺と志す

とのとと見せしむるその袖のそとと目とお拭くおのまご魂
と見ぬけが假令照天眼乃名強あまを求る小足らす
世人髮強と懐ちて他乃毛犯と世の善悪と見出すと
あまぶくぐんといふ

○
棟樑氏の老母昌貞尼の洛北言孝子隠居す風流世子
すづれり強門おえてり産お十畝むらりて業こころ
斯まそれ一世一人を死すの業とあつ煉の業と待か
まよと産園子常日ど子あつ啼くとよろこび梅外くてあ
づろろづこころ洛東子りとおれごもん子うかひさる古木おれ
ハんと産ひさし梅りりとおむる小嶋塚子老木の太いあるありと
買て多く價と費しき産園に載りりり小梅とくあるる日

○

よりしてこの雪くくへう初ん終子あらずありぬ
六世牒元綾羅補そく板の板と遠里産のれすくく小
坂乃らららさしきと廻るを定故小片産地を産く産子子
海産と歩ると我あつさるあつさる一土産の火産ひさるは産
産を産念きく紙りつる故牒一強産骨うふ者乃時と
うかう産ハこもあれ産人としてんと動さむるとあつさる
産紙一産小世産とさけ湿とのがきそ産冷茶す風とさる時ハ
産産子あつさるも産く書とさる時を産雪のあつさるも明
しあつさるあまき産と人子んやぬむらりて産候が故衣此巧もも
まされ産産ハまらめて屏風のうらうら投入に板目を産産せ
もれ一林産冬産産を被りりり産雪のをけしきと産産

ハ一物ありて六用あり 彼を宗が奇舞のうらうらた子ハあはね
どま(是)子名と与て六種の膳とよびてそのあま(と)登りま
たる山乃(粟)あまおのひがず(只)一孔うち子延(延)してやぐり出
いとハおとひるこ(り)

○ 竊(窃)乗(乘)親(親)ハ(其)六(め)て面(面)赤(赤)の上(上)子(子)あり(り)ま(ま)ど(ど)も(も)ひ(ひ)と(と)せ(せ)ふ(ふ)一(一)つ
ハ折(折)ず(ず)性(性)内(内)と(と)の(の)を(を)碎(碎)く(く)舞(舞)を(を)と(と)あ(あ)く(く)む(む)あ(あ)る(る)お(お)う(う)う
老(老)母(母)の(の)り(り)る(る)を(を)と(と)や(や)米(米)の(の)穂(穂)子(子)ハ(ハ)協(協)の(の)葉(葉)と(と)り(り)け(け)り(り)勤(勤)め(め)て
お(お)づ(づ)き(き)あ(あ)や(や)と(と)せ(せ)め(め)ら(ら)ハ(ハ)乗(乗)取(取)お(お)づ(づ)き(き)く(く)さ(さ)あ(あ)く(く)ハ(ハ)何(何)日(日)あり(り)て
て(て)悔(悔)ら(ら)ん(ん)お(お)づ(づ)き(き)れ(れ)り(り)そ(そ)て(て)簞(簞)り(り)る(る)が(が)四(四)五(五)日(日)と(と)経(経)て(て)面(面)と(と)お(お)て
あ(あ)つ(つ)く(く)へ(へ)る(る)く(く)へ(へ)持(持)料(料)と(と)お(お)づ(づ)り(り)て(て)母(母)子(子)と(と)し(し)て(て)ル(ル)本(本)ハ(ハ)母(母)子(子)
ろ(ろ)こ(こ)び(び)く(く)そ(そ)を(を)多(多)くの(の)金(金)を(を)ゆ(ゆ)ハ(ハ)面(面)く(く)つ(つ)お(お)た(た)や(や)と(と)さ(さ)ふ

ふハおもてお(お)づ(づ)り(り)さ(さ)れ(れ)ど(ど)も(も)ん(ん)子(子)多(多)き(き)を(を)さ(さ)る(る)か(か)ら(ら)の(の)中(中)ハ(ハ)七(七)面(面)あ(あ)れ
か(か)き(き)お(お)お(お)子(子)の(の)そ(そ)り(り)と(と)く(く)を(を)か(か)り(り)又(又)セ(セ)る(る)鬼(鬼)女(女)の(の)假(假)面(面)あり
け(け)ま(ま)ハ(ハ)又(又)さ(さ)る(る)お(お)ろ(ろ)く(く)と(と)て(て)傍(傍)子(子)お(お)き(き)ら(ら)り(り)る(る)れ(れ)お(お)盗(盗)人(人)と(と)し(し)て
親(親)子(子)掛(掛)り(り)た(た)と(と)付(付)し(し)て(て)又(又)く(く)母(母)ハ(ハ)鬼(鬼)面(面)と(と)類(類)子(子)お(お)わ(わ)ひ(ひ)き(き)眼(眼)の
穴(穴)より(り)又(又)子(子)が(が)う(う)や(や)ハ(ハ)盗(盗)人(人)の(の)く(く)く(く)そ(そ)乗(乗)取(取)お(お)き(き)よ(よ)と(と)い(い)ひ(ひ)る(る)と(と)盗(盗)
人(人)と(と)く(く)あ(あ)と(と)さ(さ)げ(げ)ひ(ひ)お(お)と(と)り(り)き(き)づ(づ)く(く)と(と)も(も)お(お)く(く)船(船)失(失)ぬ(ぬ)と(と)ぞ



柳里恭 稿

何この太ご細ひ云い乃の姉あね君ぎをま湯ゆの内寓いんせられるおうろろ座ざ敷しきへ
 物もののいでまをと婢ひ女ぢよ北きた扇あふぎをとておらんとすままとらうらはままま
 やうそおんとしらうと姉あね君ぎをまめめくくやされるはそと紙
 こもくくとく人ひと包つをとて座敷しきへをちちやらうらうらままくく殺ころすらうらと
 中ちゆうされるる子こ婢ひ女ぢよやけるるハハ捨すてらるるののおうそちおけハハ殺ころすらの子
 ととやや一いち條ぢょうをとて座敷しきへをちちやらうらうらままくく殺ころすらの子
 八はち寸すんののおうそちおけハハ殺ころすらの子
 づづずずととややさされるととぞ

夢む窓まどのの書かくるのの此こ子こ人ひとをまままままととぞ

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

つらげ嘸はんをつらびくサハ此てあもん氣と勞せり人ハん氣
 だ子勞せをハハ希長きそらごあべつらびるあり 殊標仙人の嘗ふ
 仙人者不善生也 後言すおわつらびるまそあぐせ
 とあり

〇
 おめ玉繩をいふところハ 荷柄平ちがあけみく平ちあやま
 ち何りいそき 小糸財政のちろくひしき 平ち子繩をうけり諸
 大名の申へ引出たり子 和田義成並ぐ一つあるとりく 九十二
 騎一黨於 綱子そむきく 鎌倉とやまきと此をき 玉繩の飲ふと
 没入して 小糸子めふとあり 乱存 和田乃 華とるぬらきふ
 綱白を義秀一人のとらそこの初方とすすこのふ義秀を鎌
 倉のこころより 修濃のまへのがれと 殖村の八代も不隠れ 住す

〇
 お雷山子入り 惣夫と業とて妻と終り こそ 権の改兼を
 〇 祖ありとつらき は文何事と縁ヤ我考ナ兼家祖ハハ曰孫シ我考ハ巴生
 紀ハ巴ハ兼家ガ娘ナリ兼家兼家ノ外叔祖トモ云ヘシ
 淀川みく 程とるるふ 漁夫お中子入り 程とあび居る
 御へうひこめて 浮き出ると 抱解と云をき ころよりのこか
 里とぞ人を凍るの及も 是子 因ドをいめハ 孝人此ありき
 正共子あびひるく 折よきとろあて 善子おもむく
 正と 軒要たるぐ一人と 吳兄すろふも 大うこの人ハ 其の
 者の 恥あることと 挙て 吳兄 兄のよく 容れざるれり
 是れ人の 功と 奉る 是と 賞美しうも 功とあり かがり
 でうさるよるく 何らざる正子 押のむく やまろぐ 任すづき
 んがらあるとさよろく 何らざるの 志ありしと 今中あぐ

の太切と失つるその善子ぬすぐとあるがおの進成樓セ
ざる此人あられど尋らばその理子伏すべし

○

孝臣の二月半までむりハ孝竹子て無未ある茶筌と
孝り老若男女あまをそのへく詣る者ありとあると
里ぬお子ありハ是よりて茶とておとありてあると
南都の風ありはまこの茶筌たるかむりてとある
子孝竹此茶筌ある子茶とて老とやあふてか
らつてとありとありハあまひとてきき番も茶とて人
とあり孝と繕る人ありむりての人台此人と無傷
あるとてくれ如し

○

人の身帯と能するとの侍法ハ言まも繕りまを万奉

んはあをとり子不飲する人あふ九百石ありあひ百
石づ年どおありとある一帯百石づ此九石づ九十
ありてお多ひ十ありありとありてその他をよつづ儉約
ありて各備子すべし儉をありてとありてとありてと
儉約あり各をすまをせだしと惜むが各備あり儉約あり
とありと各備ハお成備す

○

本三位重衡平氏さうりの次冬内乃おろ多帯上里府の地
とありつる時をさぎと一羽重きとありてとありてとありて子
あやまちて言と切里をさち尾のと跡里とありとありとありと
まらる付

十月やまを山のとさぎとありと人子入するとのあり

とよまゝなり又浮長多衛尉盛次子平氏没落の肘重御守の
 名ひて是言と附くはう汝が言と借せよとありは多を盛次い
 らまゝく々はれ敵に戦ふの肘あり外にびゆふ子八歩ふくま
 あり寺ん是ハ西秋の傘あり借糸うせむこまき走里行て
 戦つてこそある人うう侍人う
 石妙あり侍のり人系の上層中て香泉と贈る人ありめ
 つまゝとまゝ湯とたぎらせぬうちあのおの事う盆下おまき打
 ううぬり香泉やげ子のひさる香泉おぬすづてとて茶
 梳の中へあまう子入く塩と加へ湯とらぎま箸もてうき支
 へ出くはれ客をぬるぬらまら一口喫くぬる子若くありて
 飲ザレバやうくあゝ湯りくやるあゝ飲をそたり侍ハ頻

子ああよくハハ三梳おぬすべしこの子お辭退して久
 まるこの客系へ来りし肘平がめくあゝ此事とわがうぬ
 田舎子を香泉さ飲すあゝさる人もありはるありこころは
 ちまきれをくこくまきさるんはたがひ子やあまらんこ笑ま
 長楽ちれ環了こいふ侍堂内の火辨をほさる日ハ小籠を
 て箱子あき袖子控く昼飯うさうとをふたすあゝ肘ハ膳
 より茶とさるあまらて濃茶の馳走ありはるこまきさるく
 おがうすまおらう侍子たを二盆を何事おがうん子くあ
 の嚙と宣はれ火辨へ火箸とまゝ灰とありつて吐くんこす日敷
 と環了指りておゝさる人あゝ結めへさる小灰吹ありお
 ハ是へ吐くくさる客ハ面白く嚙と飲こまゝこれツク

○
ある一なるが、常子ハ家西くうるふまひまてハあらはれ
小五郎くおのち不礼セー好りとてびるまといり業の
湯を化内ととあふ子あうるるとと常小せざるやうに
そ及ハたしくうありに環了をわがたり平二をまきて
とおさんまがよきやおさんまがよきやこらうひぬ
むう一泉妙不嘉留乃商人あり園基と好うふこの及
ととく世とくこれの多くあやうふありける中不は妙
あう後侯子つう人とも何業人の後子あまきく身足手ぬと云
て埒子多智此師とあり多く乃弟子と集く世後りと
せうがおくう此おふ来りて園基のお子と好り乃弟子あ
附主人と基とくこ居るもそのおれ支取する者言五倍

支紙子色ミくほきより来り一貸金の利金ありとく三
後一ぬあうが各園基子んとおく居るうーがらまへ
あとあて改むぐとく基おをとおのハるうる存る内
のととおひ支取人の中出る小ま交るたる光あくと云
お支取する者わらうたりとあうるてもその金此方
れらとびつう一考ふ不持来り一おでハ少一のんおえあ
法れとと手小ならさまはつうくあひてをれ争ひひく止
おげまの考子その時外子来るのううと那居あうた
るハ多智の師とく格約何業のまあり彼人中く子金おど小
目の首腰ま人子ハあうざれども人ハそれ時の貧園子あまて
志おと変すまが記をもひがうとく一と子せちりて様め子

いし極めてもいひくくしてとらむ支那のそれを云々
ハ免く何素あふぐ一あのをとて一まきまに人志らず採め
あふぐ一それとハれ一不試之足信るぐ一とて序が
のゆへに不試まきく一まきくれおぐ一はのぐ一子云出くやう
此布ど一重評主人の書とあふぐ一肘日れく一そそくの一
のくそとら子一あふぐ一又ハ流流の身乃一なるか
ねぐ一それと一重評へ初たる者色なく一ゆらせゆふ
らなりハあふぐ一や何そや一あふぐ一持るく一まき
かく一やすき不任せく一尋信るれり一といハ何素あ
かまきく一やう一それと一あふぐ一流流の身乃一なるか
らなりハあふぐ一多くの金子目一れ信るて人志るに持る

アぬあそれ二の事妙は一ぬあ一ぬあけりぬあその金
のく一え一や一や一や一持るれく一こふ子支那の者
ぬあ子一え一して一主人へ一と告たり一金子一とて一舌と
ぬあれより十日あゆり一と経く一金五控一残持あり一信て一主人
不し一と一ぬあ子一ゆり一ひり一の女子一と信れ一と一こと
失ふより一ぬあ子一ハあゆり一つ一人ハえ一と一ゆる一との
爪む一き一志一て一誘ふ一と一あふぐ一子一の年一も一暮一初一
おし一も一座一し一きのあけ一より一及古一子一つ一と一と一
ち一居一せり一と一あふぐ一子一と一あふぐ一改め一と一ふ
子一貸一する一利一の金一あり一と一あふぐ一所一と一う一と一
及一五一八一五一子一教一と一教一と一足一合一せり一と一あふぐ一
及一五一八一五一子一教一と一教一と一足一合一せり一と一あふぐ一

本日もその師比初くへうう知まされは是程おくそのおこる
 色りううかくて事をせとく東玉おま小刀庵丁の類を仕止
 小事たる尾張の玉乃商人あり堀の同屋が又せめくおごう
 なるふ一の地子手ねひの所と業こしく搦針何業そふ人
 ありや三同ておあおのせうそはハ事とせむとあとのことふ
 して流浪の存立しや富家何業がりくあき金五倍と盗
 く何交こもあく失う人ありと云尾妙のおき人安あり
 ちやく否をよその金を師が盗えさふあふん化の人れ盗
 たるありはれうそは師の娘子あひくふくしき正のよと
 安うるとよを同屋のそは何交子て安あふんと云小正二系
 おく堀の者子誘はれ富家子ううし小口とさる大夫と呼

一う二年とて上れどあ初くうぶあのは口ハハ師が
 娘りてその耐富家へ返すづき金のた免子身と賣うし金
 とさる左あふ人の難わらある耐子あふんきう安めかき浮
 世あくととまら子まこと知りて語りらる子此の嘉富の家
 支配する者これ同屋の方より安ぬまを主人子とのよと告る
 に主人をたぐり子悦びく支配乃者と招くやうその方
 いらあもして二系子の初を安あ子ひりて口口とさる大夫が牙交
 ともすてあうまが搦針が初へと尋ねおき師子達ひて日
 初届きるともあふく口口とさる多くの金を持
 せく口口とさる尋ね初はそふ父を郡村とさるところ子
 けやうと求めてふ人の小使しき活計とせりそくほく

文あるめて日な子支碓の者より一む那村小あり尋るあ
とらむ一ま都あり人の居ざりしおあふりの者よとら所不
出くともぐ一途くあひみ分初めへそくき教つぬ子勘
持て立居るものあるをちてはかくと日小所おるその有さ
お存り一安子ありてをまともあられざりしうよく見るとらひも
あたらはあぐのまをわうてまんがとら村と述くその附る
めをせずひまどありのま子仰せぬはさきやと云子猪飼中子人
の糖んつ初めて解くをきこああらず家く糖と交ぬる人
はつらどこのことと申さうも許容あらんきとぬきハ人糖ありそ
此時の糖ん持ちを知らんきを明りあまども書きとら子とも
せんすあまおひらりの娘とらまき調達一たり士ハ不美の

おとすけす況や金持子控くおやその方これ不慮入りや
次へうぐんをやくまを解く一そく再入り人もせずあて烟
と測りうれを代さぬく子日ひて金と戻さんとすまど
色交すああくそのとつとがそれ方の身のさつりとおる
解く一そく也けく二追をまられば是形形くひと先系子傳り
あまは屋何葉とのふとおとくさぬく子伝き一もまども娘が
身交も彼くぬきつゆ一ま志一此輩もある一やうくさく安
かれすあつ一つ五控金とあも留れず生涯那村小老銭
書ひき終またりころや
○子とんくそと親子一うぐとら一奥あのを書初を男子五人
あり見初戸老師ハ常子よきると好きて山孫と棄とと

勤めを己の冠者女と友とく遊ばせしむるを以て
伊達北水師八山川の漁獵と好みて化のたとへば
武具と好むよき物ある時ハそとめ来りしころ
試み刀剣なども他物ハ人をも譲りあへしころ
くまきおてハ捨とうとぞ何れも文學の及ぶ
こ子嬌ひも只化の業此と事とく衆ざりしおと
て文學の及ぶしつとあつたあつたあつたあつた
げしとあつたあつたあつたあつたあつたあつた
小座りとおうけて山河乃風系と暇すしころ
つめてやらふ何れも色形あつたあつたあつたあつた
ありふとさうしつとあつたあつたあつたあつたあつた

ぬくまふくの月もささうしつとあつたあつたあつたあつた
里三あがりつとあつたあつたあつたあつたあつたあつた
こくしてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
子腹ひえあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
すしとくあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
いしとくあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
存きとくあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
えんハ素弱あり伊達ハ義あり子似く勇れく衆も勇力あり
こくでも義ありしつとあつたあつたあつたあつたあつたあつた

漸とたのま居るる一ろ隠念より付下向の肘秀海泉づり
子き言しと義經と振考へおと義名と存世子ごめと
とろろ侍たり

平が友と一ろ平河集のふそを悔思つよき人ありてあ
る肘主用けり人多くかきと新く屋のやとあり二階
あり歯きくきとつひと吐く唾のあやまちて平降が義せ
上下へあさうふかりたまふ侍人大いよきと有りその
唾と吐けき者と引出さん平降止めてあつこの家と
うらぐとさくその家子つて執策より義人此上下と
て美う人ふる此家のものごと大勢いで化るあそ平降中
らふあやまちあつてまねくんととくくつとくく出初ぬ侍

人ひらるあつてそのあふ小やう一垂りつととふふ大切
あつま用けりうらさふ此と小際をぎと子あつて常ふ
あつて義思のあの子ありとつりその存を私用ありてその
人を引連出らる子打しを返のそ講乃がさあつと打らる
平降が袴のすそあま下とせけらるあつて侍人大いよきとあり
巴子お擲おも及むんこせととつてあつて新く此の侍人中し
らるあつてあつひあまきとふくゆといふ小左子あつてはる私用
子とあつて私子人と書くととさる者の本意に違つた
えん 権思が少せが世小私辱とのふとあつてはる侍人
伊豆強河此海意あつて魚の海上下あつたりあつて侍人の
おのて一等言くあつて信とあつてとナブラともナブラとあ

清の七条子浄味をきき傷といふ言師ありやある事とて多
 く此人を仕ひるるころ伏見子人おとすすのあやそ
 ある射浄味とてていひるるハ此身今ハ何ひる不是ありれども
 五千兼と報く浮子ハあるす気合とてあるべきやどのあ
 一記おありはくしとていふ子ありて浄味予子同なるハ人
 おハあるとていふ書も出傳るといふやとていふ子予答ていふ
 人おの書とていふありてその理ゆらけあるとてけりむり三
 井古の永住傍正乃安信の春親子向をるやうにまじり
 雞のおありやといふれり子春親もよくありと云傍正いりありて
 あるとていふ知れりやといふまじり射春親もよくありとていふ
 知難きとていふ此あるありまじり身とていふありとていふ

るとて知れりのおありある激ありとていふが果ては本居
 へ乱入の附法恒ち子て楯の六部が流矢小者くうせぬアされ
 ぶ此ととも人おと見えれりところ別気合のおとまうけ
 出たりたるある果てはまじりといふ子浄味の故をありて身乃
 持やう子もまじりお我果すをいひるれまじりとありと
 ていひるぬるれある浄味の四十五六のまじりありとていひるあり
 らぬとていふありとていふれ身つひ不登落子押あひ八年があど
 して清の板子気合とていひるありとていふ人ありとていふまじり
 浄味とていふ傷を何縁此事といふまじりまじりまじり
 の上存ありませ
 本居此山中まじり深山幽谷あり岩華とていふハ籬とていふとていふと

遠くへ縋を掛けくまはるれ子づりてその妻梅の枝より下
 てつらおろし引上げおどしく谷戸の岩草をたぬきとぞ下ハ
 幾丈も路り知まざるをさるるし人とのがらりも
 しあやまちく縋のまいて落さるんや命あつて又仔細
 の浦もく海士の地を乳の子あんど引はれて夫はらひ
 とつひあきあきやひする小妻の浦を子飛つりこころ二見と
 ことおろちの子れ乳を尋ねるよとく泣声のあはれ子さる
 あそくつはまき押人ど子の泣き乃安んずひつされ浮ひて
 再びり子死つき息も休きあらず子乳をさるあつさる哀
 あくく実子惚惚の心と最勤すべし世にさる業さあつかろ
 中よりさるをひする業もあつさるのを家子あつさるの日と来

○

ふるつらあきありかまきこと子あつはや
 江戸下谷も山庵とといふいつのにあり弟子乃傍二人あり
 一人ハ守持村をりて常々ちの為とあつさるその心とつ
 せど一人乃傍を戒形とまたとく大酒を好むひあつ
 てよろつ私多ういづあつ時付おとせ出さる賣つて一人乃
 傍をく疎成かへれども安んずらるるおどしと傍持子つけ
 うの傍進出りぬをたはちのあつとあつさるるいふ傍持の
 ひと先諭えんぐりさるまじく戒つるあつさる推しぬあつ
 あつ村佛堂と名をいして賣つたを賣つて一人の傍又傍持子
 行て悪僧のあつは仏堂と盗むおと賣つてさるる傍持子
 さるる賣つたあつさる傍持子さるる傍持子及たは

五ハ何レノ禍のち子也必して身也と云らんとはおまじかありて
 一彼とて追ひて日をもすはられ子とぬまひつべしといふ子恒持
 ち候と云へばさあろば形ひのちも小その才子ゆまよつらはず
 悪傍ハ何れか一もかやこも子もかひく論す毎事このふ子
 この傍大不恒持と云へばかホとぬと乞も悪傍と追ひてた
 かりんこ押りふとのちもささてつて罪形もかホ小いとまるる
 正を云へば依怙のふ子あらずやと云ふ恒持と云へばさ子あ
 ず此身ハ何れかと出さるここといふ久初ももや傍一人の勤
 ハあるればあり悪傍ハ何れか傍と云へば外を忽捕まて罪人と
 かりんもちりり難くさすればはもすれり一人の才子と失ふ
 形も也為子と難くハ何れか子おまき彼が命とも延くろハ後

一誠也と云へば善ん子立るるともあざと云ふまてたの
 一にりつ傍と云へば子つみの残さるる形も此よりとて悪
 傍も師の言思子感りやがく善ん子ひるるるしとぞ
 一此に覺と云へば載てたは案の子におりまが徳を肩
 ちりりて曳き登が妻とおりの女の子と背負ひあせ素子
 子の子を引く及後子食を乞ぬると云へばあらんよふり
 一何れか乞食此を際りて多くの子と云へば引け引けと云へば
 一何れかするとせん才子まをれあざと云へば笑ふ子予おり
 一乞食と云へばの州の露うらせをうけりあゝあまてよみあ
 人の親子兄弟夫婦の中子つとてあまておあせおあ
 一恒居する輩あらんてたると乞食とて何れともる子

鳥が飛ぶと育て〜人も〜やむ女児〜ハおけりす〜見女子
のど〜形びつ〜こ〜痴情〜とびさうて〜老態〜あ〜あ〜あ〜あ
艶情〜子容姿〜とつ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜あ〜あ〜あ〜あ
見の愛〜あ〜子浮〜れ〜這〜ひ〜ま〜つ〜ま〜つ〜子〜お〜り〜ろ〜く〜す〜う〜て〜ま〜ふ
慰〜えぬ〜北〜は〜と〜か〜が〜む〜お〜く〜も〜あ〜う〜ろ〜形〜乃〜昔〜ひ〜と〜あ〜が〜く〜忘
ま〜く〜探〜ろ〜一〜足〜後〜耐〜し〜と〜あ〜ま〜ハ〜様〜差〜の〜こ〜ろ〜と〜刺〜形〜子〜止〜
十年あ〜あ〜と〜経〜る〜や〜と〜小〜容〜色〜好〜始〜ろ〜ろ〜ろ〜類〜む〜を〜あ〜の〜て〜く
その艶麗〜と〜る〜世〜子〜絶〜偏〜の〜美〜女〜と〜あ〜ろ〜ろ〜ろ〜ふ〜相〜ふ〜意〜情〜と〜情
〜と〜ろ〜れ〜る〜女〜が〜如〜と〜礎〜一〜忽〜ち〜あ〜ら〜う〜や〜う〜ろ〜ろ〜書〜音〜く〜あ〜る
丹城子慢〜と〜ろ〜あ〜ろ〜ぬ〜わ〜の〜書〜と〜せん〜よう〜妓〜女〜こ〜も〜れ〜て〜ま〜が
身〜の〜あ〜ろ〜ろ〜権〜子〜お〜さ〜さ〜や〜と〜舞〜曲〜乃〜妓〜藝〜と〜ま〜ろ〜ろ〜あ〜ろ〜ろ〜ハ〜セ〜ク〜

とまのこよび〜遊〜ふ〜い〜で〜諸〜客〜乃〜坐〜興〜と〜ろ〜ろ〜ふ〜こ〜子〜人
あ〜ろ〜ろ〜て〜寵〜す〜ろ〜子〜ひ〜お〜か〜く〜老〜婆〜を〜お〜ひ〜ひ〜が〜こ〜ろ〜ろ〜子〜と〜ろ〜ろ
の〜の〜と〜と〜ぬ〜む〜ろ〜ろ〜あ〜あ〜て〜と〜ま〜の〜初〜任〜坐〜卧〜小〜の〜ろ〜ろ〜衣
彼〜れ〜飾〜り〜も〜表〜だ〜ろ〜ろ〜と〜華〜美〜ふ〜つ〜ろ〜ろ〜ひ〜兼〜子〜ハ〜本〜音〜乃〜麻
衣〜と〜は〜れ〜る〜と〜ま〜の〜舞〜曲〜も〜場〜ろ〜ろ〜て〜ん〜の〜お〜ろ〜ろ〜あ〜ま〜ね〜と〜
毛〜梳〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ハ〜他〜ひ〜の〜科〜め〜と〜付〜ぐ〜子〜絶〜て〜書〜母〜が〜や〜あ〜ら〜ろ
あ〜ろ〜ろ〜い〜と〜と〜書〜音〜や〜ま〜ま〜と〜精〜思〜と〜ろ〜ろ〜や〜お〜ひ〜身〜ハ〜捨〜れ〜親
と〜も〜然〜ろ〜ろ〜獨〜お〜れ〜が〜不〜淫〜と〜情〜と〜精〜感〜子〜伐〜ろ〜ろ〜志〜わ〜く〜あ〜と
老〜の〜力〜此〜手〜弱〜と〜子〜げ〜キ〜不〜義〜子〜隨〜ふ〜多〜る〜若〜子〜ハ〜衣〜の〜襟〜も〜あ〜ら
つ〜拂〜ひ〜出〜ろ〜ろ〜母〜の〜泣〜然〜と〜心〜怪〜く〜ろ〜ろ〜ハ〜新〜水〜の〜芳〜子〜ろ〜ろ〜を
洒〜掃〜れ〜つ〜と〜め〜寝〜食〜乃〜交〜造〜次〜類〜涕〜宵〜く〜こ〜と〜れ〜く〜孝〜情〜乃

五北より子威するふあり何りある嘉宴の商人玉孫が美
麗ありをこそくつ常子立入るき人へ宿のたれ玉孫子教令
と擲く履ひ橋上へ誘ひ移まき姪せんとする玉孫をその
おはうくつ子にて逢ふおとせゆるきぬわつある處ごとく一
とくくふのやどとあれがらふ尋ねる玉孫を獲てくつ
ろげあらしむを裳とけけ執着せざるせつ形を相あつにつ
まとまつくハ帯紐をまき副卧せんは客不意志乃情と
くく志む和らひひ兵ふくく人のこめあらず親とく人
子ありぞう志むるの妻不憚ぬを明く衣被せありとありて又
乃あやせとぬきつ履くそまご子母の命と結のこく袂小後
はくくして北の商客のありとも感子とえうぬをけるをひふ

かれきと書くそのおの客をすげあくるく明ての契と
約すまごも客はくげより付つ北がやまふくくうくひ居
れををんを合々材を食うたぐりとのこおひををまごあ
るる日の夕橋へを約とくつ増者子下知くく過お思む
せ玉孫と殺せくはくく少高客のありとも書せんとなら
子玉孫はるこ子とくく乃本下高客はありと鳥渡のお
後く居るると二人乃若我殺害くく何をもあく失く
玉孫ハ怨歎子肯がく歎の信華子のがれくと安部都我
去りてくく不憚くくも美麗乃面と焦く碓き尼子容を
久志のひく子くくく二年経ざる林のば子とくくをそ乃
美哉送まざるくくと結母のくく信華おおひ歎のそと

○
藤子乞ふけ都子うりそ母乃懐養子手白け供養しける
うやうの島が重と土人むねがど実ハ妓女を所を養うと臨
とる

あまの一言此社自子化名して羊の丈夫とるあり妻扱
乃子と勢といひ浮妻の子と特とる羊の丈夫老さるる
年七十年と超たれともいふありあふる處やあり乃ん勢ハ二十の歳と
鐘ゆれど妻とも迎へて家督と譲らるるありけるが丈夫が性
質強弱ありてはあふ神のめれいそねが進退己があふいしてん
むらさるるをうりそ社に小治る勢とせむバ親と見たりあ子
乃常あり勢も家子書及る家ハあれども困甚す子どうのか
くさき子秋り終子ハ遊女が色不押をまき付家殺多勢とる

まハ父乃不與と衆く妻がやうり子身と隠し父を病乃
床小うち臥し死と待むるまといづり子まきても口びく
つんとあふ志ハあふれが家督と才の轉ふ譲りて幾やど
子く身あうりぬ勢ハ妻乃伯父とるい家督とせける後書
とゆれ一雇子訴出れが官令二人の兄弟と名て社職の乃
勤と同子特がこゝろ切あして勢が言明うあふねが必家と
ち獲する職不疎しと勢ハ衆と退らる轉子家督の定るる
存あつるおとあふを侍人あふりて悪くして企く事成す
退くといふも然ハ生後子身するるとか子として仇と
さむらるる親さるるとのんああうるる一人の世子あふ替
あふり身と安き子盡くあふ志と特と招てうるる子特

云々の一ろはれ美羊の孝とよきさうつらひの事母子うら
ひも身と返まんとおのりど母乃んとまゝなておこさあ
れと結はるふちやくもんづけおつお仰子あさひおあうす
う一はれ美羊の孝とよきさうつらひの子とうあも先不
産れ一羊と二えくほ子産まて一羊れ子のそのおけと飲
とれく先存時と遠つさるこく飲たあもおのけううるあり
父の忠言と背おはれど兄する人と返るお督れ社職と副
ううこも懐たる乃子うおのねお飲たあもおあふとあ一お禽
飲子もあうさう身うて神子奉るとととと神慮ううう納
更しもあを返らんやいど道世しくあうぞくべとして兄の勢
おお督とつづり母のう郷へ系居して孝事おんくあうとあん

○ 平治陽子あるづるころ比叡の山こえお幸崎乃松見んと言那
村ある茶店子惣つ子この里れ名産さく優次とせまうくお
どお驚り口あゆとて出せるとうう十葉むううあるやほま
たる鬼の面ざりのこはつと氣さく兄やるがやうう子来く兄
居るれは是と分ちくわくううおるそのお言く残おあ
いの声あうけおど戴きてお言をささるぞうけくととど色
終子るれまき持さうぬやくのさうう節の音左もあうぬつきとふ
やとおのいどその面ざりのああり子氣さく兄をこれお見お身と
ちの産れ子あやよき子と持れしとけりといつあ子おくよ子お
してはれとも彼はさうおん才より勢うおるあのみありとつあ子ぞ
乃子や氏より音あううううさう人の子うともその傳乃の事

是れがおのづからそのやゝきまらざる人なる此地の變と交
換子育てる土地より此氣變と天地を左あらしむるも此情
の草木より移りてまはる親と夢なる自然なりといふんや善子
る性と徳と一人の際に於ておや童の百年を捨てて善
と子く悪とあく切き射子おぼえしと其身を終るまじく忘る
と七情の身子支ゆると如く無常の心一ふれづ形う左あま
先又を信ししめてまじりて善と悪と教ふて一まじりて一語お
まはる戸子諸事果とのふ人ありそが母と乃縁ありそ其最の
米同登ありしがある年俾勢参る良のうさ子童あり佐村の
中山子結くむとこの名物餅の餅と食する時多くの見らあ
つまつて羨しげなりあらしむる子跡の餅と見らふ分ちあらし

たれが十歳をうり此童ひとりハ交つ見らとすまぬけそ
床凡子あまて流がやくやう人乃あやせし合物あどやちうも
らひく言ふべきやとつる物この耳子とあり童のやうす
とうらふ子負する子と背子ありおろし介抱しつる仕こあ
の福もこの形ること尋常ありねが諸事ハあましおむらひ幼
き見と負する童ハこのお乃ののぞと同一が二死山うや中
ある農夫の子ありこあやとあまら不化ありそ色をひらぐた
たこの多くをれうが家子童あり童を親此質と繕うや性
童ありそやあるときひ調養するとも曲りくあまハ人しうね
るふ心しそ童ありおのれが言ふ童うざれば言ふず人乃あやせし
物と食せし訥弁ありそ利とこのひ善成ううて悪とつね

ばあられし書ひ付くぬとつあ子諸崎あまうふわく々とつあ
まをそ彼が幸ひあめと母と兄と告中れはよりあひ来りし
まをそども子存公のりぬきつまはこまは後契約して中山まで
ゆき若あれはこま名を中者と改め居仕ふ子十年の勤免私
あくすまき主人の死とあけ 疎るよとあむくあれが信ひまわ
るさくあつ忠言耳子さうふのあついとくハ不與さけ二千の
年ま身と退きぬもろよせし才を頼めてあむくうを思
り野水が諸崎のこふらぎり次討集まを奢れるあつひられ
子儉とあむくとすれとあつとつうやるん乃つてきてあまへ人
ふうち何せ妻宅とまきこ庭園の張り高人子起るし樹木永
石子万端の責令と替り茶屋の舞舞の並與子あつて遂に家

人子礼と為しし一履に不始奔のこまをすまを妻ハ園隼の戒
とあひ密まことと子何こ入り奔り後者まをこまを是よりこた
ま下こか余り抹むるととまひ内あを家と保つ乃助けと
あひ外子の産成傾くは借財多うりまはハ大履のたわしハ
一本のよきさめろあまあつざれは名子押ハ豪華のあままでもつ
ひ子討家と分散しとあむくを道井とつる片田金少潜る隠
ま持つとつたる調音のまをひとつる代とあつても云とせ
ちうつと送まううち牙の生残書ハさう小骨北恒家ハ明着の
まをそま子壊まきと疲ふとつされ病重りて死と結むるとと
と討ふ人たふもあつさうしが彼中者ハんしとく守引の業とまをひ
まをそま家のやうと付ふ子主人の病あつくと安くありこま

山あり農夫勤助が子ありその忠節お父子祀す活況の如
 中吉王が再興のその信華お卦く射取入てあやと待ひ
 ひろく子一そのおあとおく子育親者の事おちひ辱引乃
 業と海の資とてまおのたあまると再び起せりそのお
 ら此おありとく彼地の事おあまるとあはれも彼がやし業あり
 正とあるものもあうりしふ平かは戸子ありびくころあひ此
 事と受つてそく養とて待ひるま慈照とるるあや居の傍
 おのあを周祀しそく少せり子感涙とまあがくて書とあつ
 世で彼を又と八載おあまの命ありく依杖乃中山
 の唐土の司るおあう昇仙橋乃担子路しそく証言のそまお
 乗らすんまそく此指とるらしと書しおあまが世の志



あくいお自領の松あり中吉があの子お授る忠節のためお
 名を子授けし辞藻乃言西初の古あ子すり調由まあはつとい
 正とと練とおすのおおあひおあしそくおあが及ことろ子あら
 次諸誇ひとま此女子ありらそくと中吉おめあはれそくお早と謙
 里二居三徳と稱せり
 平か支つりし人の子子兄弟弟子幸ふああり兄を砂糖と
 後世そ衣食おおとて懶ま流まおあまそくあまそくまうけ
 れく身八徳とあまあいて康食康彼し鳥らざればあまそく
 へそおまそくそれ兄弟弟に才あまめるとそのそく財と借りて
 るの世業と送るとそく儉とあまそく乃勤めあまそくいよく貧く
 くありゆまそくまの財と才子をそくも肯んせまそくらまおあ

そりうら子その兄此が子菴子入来り歎息しく云々やうハ
親類多く事ごとくそ兄の實りまきと資さるわありの他人
小考するあるべしうればより商人とや免く武士ともあ
んととわあといふ子平の愛もあられしおとひ武成の
あこわういあぬどさやうのやきんとおち武士ともあ
が危きと海淵子のぞむごとく又海舟とむむ子似ればん一
の工夫とあがきし才此資とるんそやうが平小傳の秘し
いなる能の相とひし義子隨ふん何れが身と立成起す
づし義又捨古あまする射を身と立此とまき子あるはよき
戦ふとが師身乃約とく契りくおの戦と習ふまや此約と
正しく云々此が親類も此資とありて身とも立くおと

さば吾免うとく六とくやぐて師身乃約とかりりさて衣裳
手りてはあうさまを明て来るを待たれを約と違つたあり
ふさあうハ指南すづきありそ彼の襤褸といで美さる小神と
祝久させ布衣の姿も九法くろひ美来れそれ身子別ぬる
その姿あう居るまけり衣神教ふをりくちを授く聖きもの
あうれりてくちを美せし小神とくあげおき月とくく日と
つるも衣教のいまを身別すく授くおもあえんざりか
あひとせも色くち身兄の兼彼とよひくてを家をも保
つる儉とせもさうやうすを美美し平の学菴子まき告れ
平も又兄のんさうりて兄も身がようこびとつけ身と兼
あうおまきくあうく飾と慶する射を求りすても射ハ

建つはとめよやとさうすいやくわかく我兄とあらまじううう子感
いよく多くの材と船をばらんくうう儉とちりて身を三味と
もたしこれるること才も考らざうらま

○ある人悟忍の二子と座敷子あるしおきて常におまきと足付ハおの
づううふよりて日利のんがけよりさうさうのあれと悟忍を執
柄せられん身子感せざるや忍不悟さうとあもあし忍ぶとあり難く
予も悟忍とちりまるとと押あし乗合の舟やと事よあるうう子俊
よまきとハさうとさハ僕ま人とつれさ系よりお舟みく浪華つあ
そひまこと浪華よしも又舟みく東へのちりつひさぶる子舟子泊
まるとあしさうして悟忍乃舊古せり人の世不あると二舟子乗
合と海うううと替ひつれをさうどの不舟使たりとも忍ぶ

○本様さうとあうさうたさし一板の家子住とも乗合舟ハ
優るううお泊のせり子き操とちりさと結め入乃是と操と
しし押合の睡らん子れをやすり起されさうまごろむとお
さハ新小月さあう起うさ子ん小住せさうはたとひ一板と
とどと生流さ子やひさうさう

○兼房と好むさうのこれさあとも并子くううおさうさうの
んねさうさうはうう流子あうさう叶をぬお外りおとさう蓋乃
蓋とさう斜子ゆめ飾おまきさうはうさう店あもひさうくえ
るさうあうさうさうさうさうさう又利休居士が利あさき手操の
蓋物と愛すさうん利欲さきさうがや者あり鉄さう柳井あさうも
財のさうさうと兼房乃本さうさうとさうさう救急屋叫くわああ

へい子とあるが商人によきなる物なりとこそ許せりて
 持来しるはあつたこの益金一枚子買はるるが益乃あつたひれを
 やるのゆへに定規ありこの益のあつたもあつた他人の
 便はつ許すまはりそ乃便おの他あり言卑ある附その
 許の事なやすれりおのひもあつて試しあつ買はるるん
 小あつつひたのこもあつてとらぶ主人の附子感してやひ子
 もおのりろ風流乃乃さるまきとありさくいふあつたの便子買と
 買ぬ

益お子うきうす何き言き便のこれき言低き便の
 ひひきく購さるるもまよき言のやすく買んとおの志言
 き人の悦とするおあつたむり後の粟田は清おちの境内を

ちよと地を権現の社内ありまき利友の建てる燈籠を
 出さるる商人の手あつたを人のこもあつた便と同し
 令子買ぬありとのふとのこれすぐ不承めらおあつた清おちの
 役倍受て二平あつたすてらまき言をためて持来つて
 て買はるるわに清おちの地子存くことぞ

平はけおまき言より清おちの乃を好きたぬに便文をせりて
 うら持来る父子足すふことてあめらとておく只益
 のとれりそく座者子投控おつた他の者乃を足てあつたさるるハ
 ちりもくハつたのとのおひひるるあつたあつた女乃
 お持あつたのん子買はるる少神を一日子一年ねつて後ひく余
 までおとろぬお持ぬ商人の足りてあつたあつた子買あつた

予わらふ村との縁ふせひをばりて孝くしるる事あり
 ありて母子好れ終母子育てこれと厳しき生後より出ら末よ
 子母仕の良きと法とあり七歳より手習ひおまを裁ぬいと教これ
 実の子ありぬが義刑是るごとと未子ありてそら五えをちあを
 してておねつてあまびふふえをく只おねふとおらのいひとまお
 切つてまおたおらうへおけしき母とておとひくをまらとありてハ
 物産良と人子おめられ終るは母子終母乃おさけ終るるる意
 孝くありてしるる事ありて予がけしき子終るは此後又とあめられざる
 のやとありてたきとおひあつせぬ
 丹波の山と丹後乃山ありて山と号するをさるあり
 是れ麓の村ありて多き農夫あり二人の娘ありて一人は先

妻の子ありて十七歳妹を十歳ありて父ハ妹が十歳の時
 身ありて二人の娘母子終る事と孝初めありて母
 のやとありてたきとおひあつせぬ
 ときおよが毎きうとられく一人を果おと高ひ目し市町子出
 妹ハ山野子終る事と孝初めありて父ハ妹が十歳の時
 久く母とをくく見附てしるる事ありて予がけしき子終るは此後又とあめられざる
 らで母子ありて母を人子ありて終る事ありて予がけしき子終るは此後又とあめられざる
 人ともおとらうして目とおくしるる事ありて予がけしき子終るは此後又とあめられざる
 てひあう子おがうらるる事ありて予がけしき子終るは此後又とあめられざる
 とともお働はれはとくありて子衣食のやう母子届くところか
 一おのり子都子人あき人のあきと多きを尋ねる事あり

母と愛するその身はしるをもて母と喜ひしつゝおのつゝ心身の業
まがひけり子きとて母と大切子やあひまゐるすくゝと後
せきあへずしひまをそまへば妹はあぬ子らるんとのまゝをそ
とも子匠つゝいへばまきればこのも母をたやすまへとくかた
免すゝて家子くうぬその日より養ぬれがたど子かの妹乃
又えざれは妹が初子をひらう子母あ尋ねるる山の毘沙門
事入ん教あんとくしつづるありとてその殊緒さいとくおのひお
くも子おやう雨乃つゝく降るるが妹の妹はあやうを言へあや
うくも降るあ坂のくゝきと初るるありとてはうくも母の
教もあへん何けく膝あはまうづゝとやめまをさむれども
乃の言れ満教あまは母のう妹ごと天皇子ぬがひまゝせせてい

うでうゆりややづきひこすうふひるもやめあかの奉母子はげぬ
あふとく大雨もいとく初木の初どふ一里あやうとてくまゝ
峰の事へ出初るるがくゝとくそ子たたり初てん子事あ
内緒とて火うげのうやきままばいとやうくおひく内と
うひるもふて人の絨も雨子ぬれも衣敷を焚火子あゝと
あゝとく絨とあゝとく縁人の雨やとくせとておひてそと肉
あふれを絨のおき子おやうきつ目とあゝ外乃才とえやま
八十歳むらの女子ひらう義堂うらぎて来り雨木のくまふ
たひやうあゝにまゝとてまおをれやとてはつれあゝと
あまのけれへ初とくせとてあまのけれあゝとてあまのけれ
あまのけれあゝとてあまのけれあゝとてあまのけれあゝとて

といひすみじくありお礼してあるその紙ハ折又ふも
 その村よりもちきり及てつある形取あまてまうづらそと
 小女子たあざしくそのもえつるつあ居たりしがあひく尋ひて
 子ありといふ日一人の母と姉と二人してやいかひまゐる
 すまごもあまひほくねんといふ父あまて一年あまうい
 てそのころ田をこまあつてつあくるその日とるさんよたがのふ
 さ子姉れあま身とつる母を喜んといつるひとる母れ
 やいかその難れ母も喜ひ姉れも身とつるあまてとあひあ
 ままごあまんいあつたれが神仏あ外あふりもれくこの所
 事此奉るあまあまの親とけあ的事あひ信す命とめ
 まれいこ形取あまあつとさあつとにほあまが紙ハかひあ教

合や二人あまてとあまてつて貰ひあまてと扱を孝人の娘か
 よいころ母と大切におひ姉とも大事あつてとてり此二人ハ
 何事とつらやまてと憐れもあまてとあまてとあまてとあ
 風呂あまあまてと小女子あまてとあまてとあまてとあま
 事すアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
 たらするありとろ兼登まてとろアアアアアアアアアアアア
 や毘沙門天の利益あまてとあまてとあまてとあまてとあ
 人のあまてとあまてと

雲萍雜志卷之二



